

— 北海道医師会認定生涯教育講座 小児科領域講習 (iii 1 単位)—

札幌市小児科医会研究会のお知らせ

札幌市小児科医会

【学術部 30. 7. 17】

拝啓 諸先生には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。

さて、8月研究会は下記のとおり開催することとなりましたので、ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

日 時：平成30年8月4日（土曜日） 午後4時30分－6時00分

場 所：札幌市医師会館 5階西ホール（中央区大通西19丁目 TEL611-4181）

座 長：国立病院機構北海道医療センター小児科

小児腎臓病センター 荒木 義則 先生

演 題：「小児科医が知っておかなければならない遺伝子の知識」

—遺伝子解析で何が分かるのか？どこまで分かるのか？

次世代シーケンサーって何？—

演 者：神戸大学大学院医学研究科 内科系講座小児科学分野

こども急性疾患学部門特命教授 野津 寛大 先生

演者紹介：

1972年、神戸市生まれ。1991年、洛南高校卒業（6年間神戸から京都に通いました。でも神戸-京都間は多分、札幌-旭川間より近いです）。1991年、神戸大学医学部入学、1997年、同卒業。1997年、愛仁会高槻病院ローテート勤務。1999年、姫路赤十字病院小児科勤務。2001年より神戸大学小児科勤務。2018年8月より現職。2010年3月より3年間Medical College of Wisconsinでポストドクとして勤務（初めて関西の外に住みました）。

専門：小児腎臓病学。遺伝学。

賞罰：

2006年度から3年連続して 第41回から43回までの小児腎臓病学会学術集会奨励賞受賞

2016年度 第17回小児医学川野賞

2017年度 第1回日本腎臓学会 Clinical Scientist Award

最近の悩み：大学の雑用が多すぎる。当直の際、電子カルテでの指示の出し方が分からない（研修医、若者に依存しすぎ・・・）。老化（带状疱疹、アキレス腱炎、白髪）。研究費を取るのがどんどん難しくなっている。

その他：北海道大好きです。離島も好きで、利尻、礼文、奥尻、天売、焼尻制覇しております。夢は北方四島すべての観光に行くことです。

こどもの病気には多数の遺伝性疾患があります。以前は臨床的に遺伝性疾患と確定診断された場合、必ずしも遺伝子診断を行わない場合が多々ありました。その最も大きな理由は、遺伝子診断が煩雑であったため、遺伝子診断を行う施設さえ存在しない場合がほとんどでした。また中には臨床的に診断が付いているので遺伝子診断は必要とないという考えや、遺伝子診断を行うことで患者さんに遺伝子異常のレッテル張りをしてしまうことになるという考えなどにより施行されない場合もありました。しかし、近年の遺伝子解析技術の進歩はすさまじく、非常に容易に遺伝子診断ができる時代となり、ほぼすべての遺伝性疾患が日本中のどこかの研究室で解析可能となりました。また一部の疾患においては遺伝学的検査が保険収載されるに至っております。

遺伝子診断にはたくさんのメリットがあります。患者情報の集積による病態の解明、疾患特異的治療法の開発など、患者さんに将来的に還元できる成果を出すことが可能となったり、予後や腎外合併症の予測、子孫への遺伝の可能性の推測などが可能となる場合もあります。さらには、遺伝子診断により、臨床診断名とまったく異なる疾患であることが判明することも多々あります。

遺伝子診断が医療において当然の診断技術となった反面、遺伝子を専門としない小児科の先生方にとっては遺伝子の勉強はハードルが高く、避けて通りたい分野ではないかと想像できます。

近年の次世代シーケンサーの登場は遺伝子研究の世界に革命的進化をもたらしました。しかし、遺伝子を専門としない先生方にとっては、何か人ごとのように感じてらっしゃるのではないかと思います。

本講演におきましては、私たちが行っている遺伝性腎疾患における研究成果などを例示させていただきます。それにより、遺伝子の勉強を避けて通ってこられた先生方に、最近の遺伝子研究分野における進歩に追いついていただけるよう、遺伝子診断の基本的考え方、方法、意義と倫理に関して説明させていただき、遺伝子に関する苦手意識を払拭していただきたいと思います。何卒よろしく願いいたします。

※本研究会は、北海道医師会の承認を得て、北海道医師会認定生涯教育講座として開催。CC：15（臨床問題解決のプロセス）

次回の予定

日 時：平成30年9月22日（土）16:30開始 場 所：札幌市医師会館5階東ホール
演 題：「妊娠・授乳中の投薬」 専門医更新(小児科専門講習 iii-1単位)
演 者：国立成育医療センター周産期・母性診療センター
主任副センター長 村島 温子 先生